

団体意識調査の結果(概要版)

1 調査概要

(1) 調査目的

新しい総合計画の策定にあたり、まちづくり、教育、文化など様々な立場から市民活動に携わっている団体である、北広島市内の公益活動団体(NPO、ボランティア団体、社会教育団体、町内会等)を対象に、意見等を把握するために実施した。

(2) 調査項目

	調査項目	ページ
(1) 団体概要	問 1-1 団体名	3
	問 1-2 団体区分	
	問 1-3 会員数	
	問 1-4 活動年数	
	問 2 活動内容	
	問 3 活動地域	
(2) 活動状況について	問 4 近年の活動規模	3
	問 5 今後の活動規模	
(3) 活動における課題について	問 6 課題	3
	問 7 組織体制	
	問 8 活動拠点	
	問 9 活動拠点への満足度	
	問 10 活動の場への期待	
(4) 行政との協働について	問 11 行政との協働への意向	4・5
	問 12 協働分野	
	問 13 協働内容	
	問 14 協働を考えていない理由	
	問 15 行政への要望	
(5) 将来の北広島市の姿について	問 16 北広島市の将来像	6
(6) 自由意見	問 17 まちづくり推進に向けた意見等	7

(3) 調査対象

北広島市内の公益活動団体 601 団体

(4) 調査時期

2018 年 10 月 5 日～11 月 9 日

(5) 調査方法

アンケート調査票を郵送し、郵送（返信用封筒同封（切手不要））にて回収した。

(6) 回収状況

配布数	601 件
有効回収数	428 件
回収率	71.2%

2 調査結果概要

(1) 団体概要

①活動年数

・「40年以上」が最も多く22.9%、次いで「10～19年」が22.7%。

②活動分野

・「地域活動」が最も多く32.5%、次いで「スポーツ関係」が19.4%。

③活動地域

・「北広島団地地区」が最も多く22.7%、次いで「市内全域」が20.8%。

(2) 団体の活動状況について

①近年の活動規模

・「現状維持」が最も多く57.9%、次いで「縮小してきている」が22.7%。拡大傾向（「大きく拡大している」＋「拡大してきている」）にある団体（14.5%）と、縮小傾向（「大きく縮小している」＋「縮小してきている」）にある団体（27.4%）では、縮小傾向の団体の方が多い。

②今後の活動規模

・「現状維持でよい」が最も多く54.4%、次いで「拡大していきたい」が35.5%。
・活動年数別にみると、1～9年は「拡大していきたい」が最も多く、一方10年以上については、「現状維持でよい」が最も多い。

(3) 団体の活動における課題について

①課題

・「会員の高齢化」が最も多く62.6%、次いで「運営スタッフ確保」が45.8%、「会員増加」が31.3%

②組織体制

・「会員数には満足しているが、運営スタッフが少なく、運営業務の負荷が大きい」が最も多く35.0%、次いで「運営スタッフは足りているが、会員数が少ないと感じている」が22.4%。

③活動拠点

・「公民館などの公共施設」が最も多く45.8%、次いで「町内会館」が24.1%。

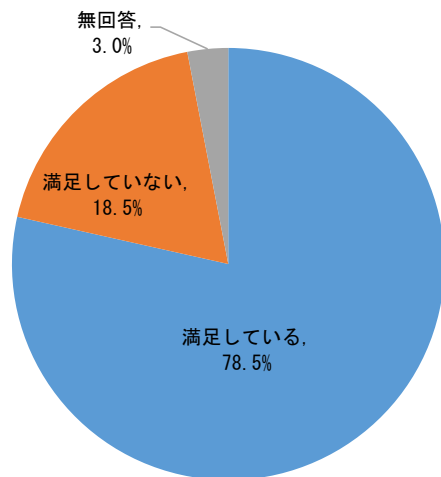
④活動拠点への満足度

・「満足している」が78.5%、「満足していない」が18.5%。
・満足していない理由としては、「活動場所不足」をはじめ、施設の「老朽化」、「使い勝手の悪さ」、「使用料の負担感」、「立地の悪さ」、施設までの「交通アクセスの悪さ」等。

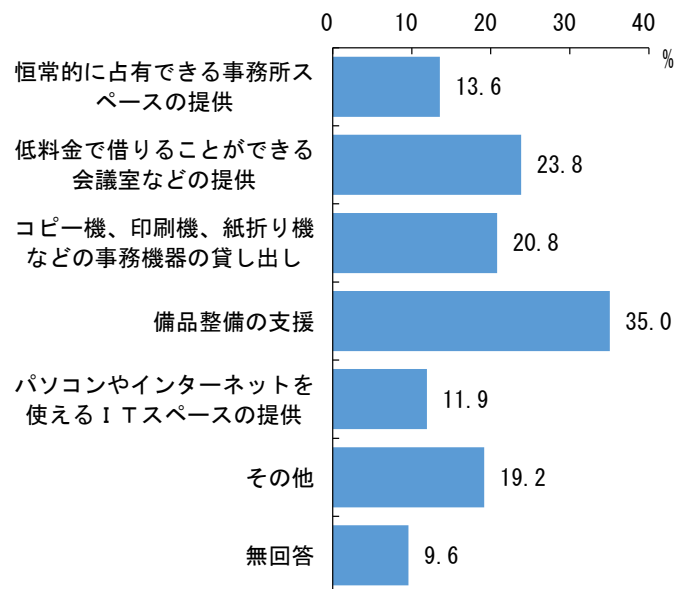
⑤活動の場への期待

・「備品整備の支援」が最も多く 35.0%、次いで「低料金で借りることができる会議室などの提供」が 23.8%、「コピー機、印刷機、紙折り機などの事務機器の貸し出し」が 20.8%。

活動拠点への満足度



活動の場への期待



(4) 行政との協働について

①行政との協働への意向

・「既に協働を行っている」が最も多く 37.4%、次いで「協働したい」が 28.3%。

②協働分野

・「教育・文化・スポーツ」が最も多く 42.7%、次いで「生活環境（道路、除雪、公園、防犯、防災など）」が 41.3%、「市民参加・交流」が 38.1%。
 ・活動分野別でみると、地域活動、まちづくり関係、環境保全関係においては、「生活環境（道路、除雪、公園、防犯、防災など）」が最も多い。スポーツ関係、学術、文化、芸術関係、子どもの健全育成関係においては、「教育・文化・スポーツ」が最も多く、各団体それぞれの活動分野と密接に結びついていることがうかがえる。

③協働内容

・「事業の運営協力」が最も多く 42.0%、次いで「実行委員会・協議会等への参加」が 24.9%、「事業の企画協力」が 21.0%。

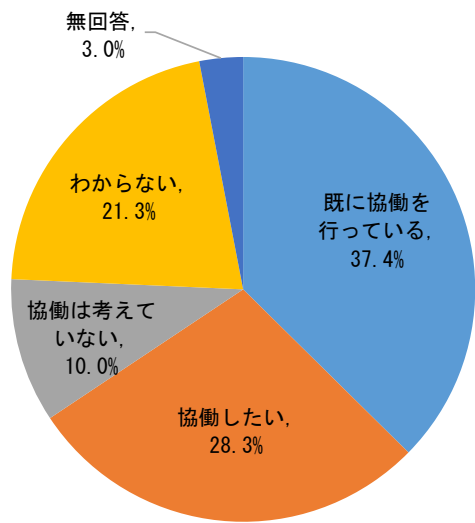
④協働を考えていない理由

・「スタッフ、会員不足」によりゆとりがないことをはじめ、「高齢化」で対応しきれないこと、「必要性の無さ」、「現状維持」で充分である等があげられている。

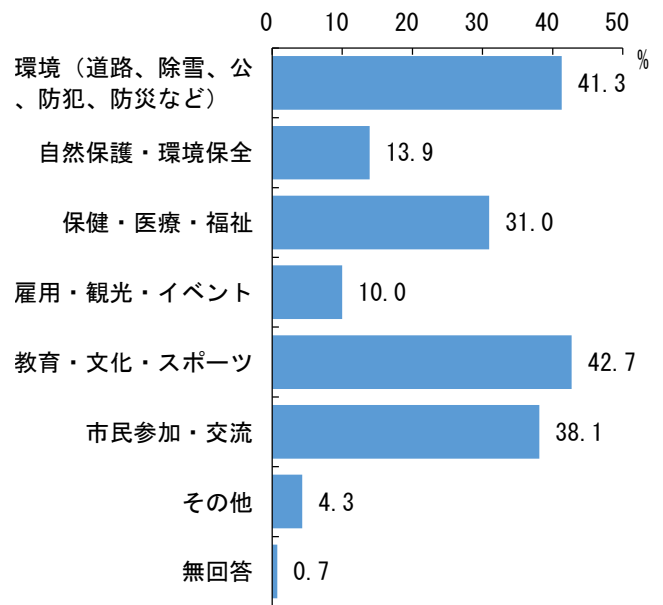
⑤行政への要望

・「施設や設備の貸与」が最も多く 36.0%、次いで「助成金の支給」が 35.7%、「活動に関する助言・相談」が 29.7%。

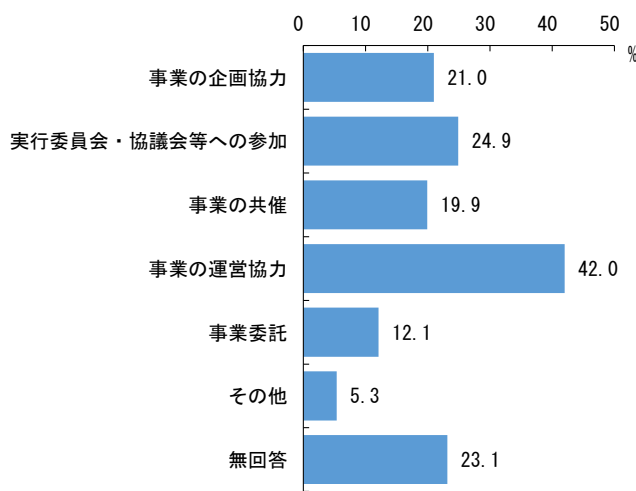
行政との協働への意向



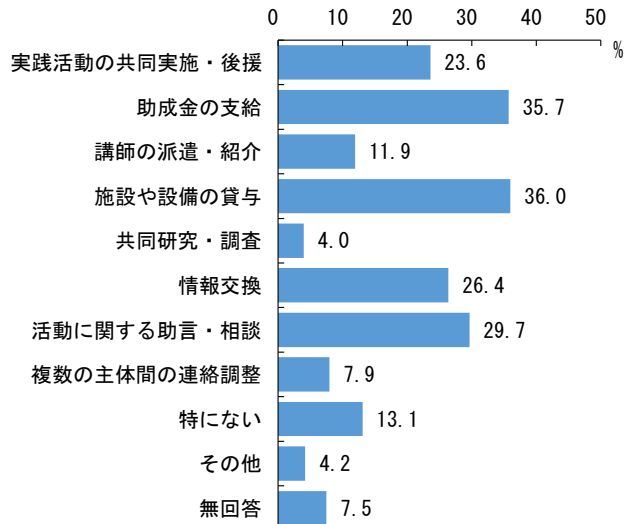
協働分野



協働の内容



行政に期待すること

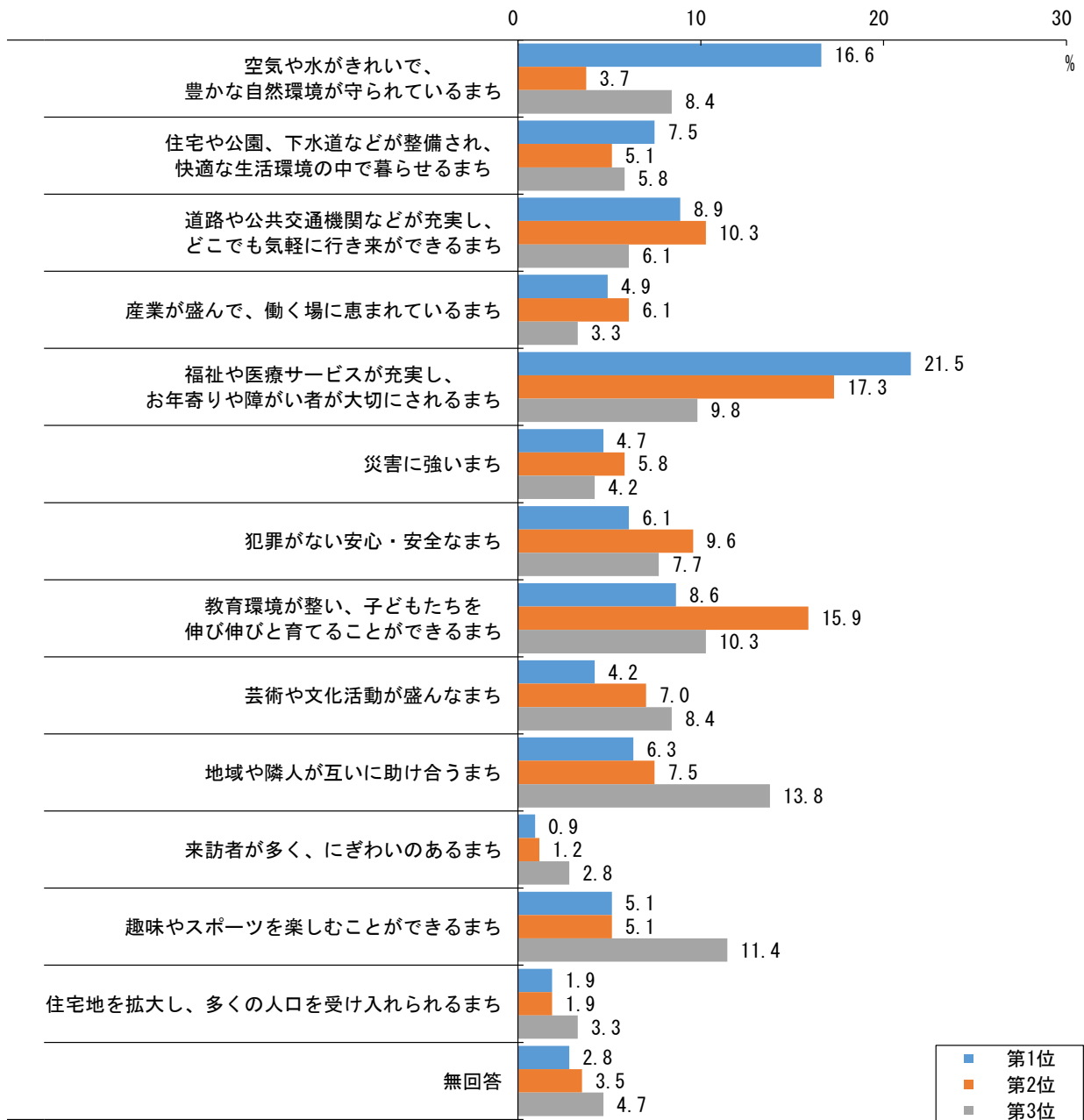


(5) 将来の北広島市の姿について

○北広島市の将来像

- ・第1位としてあげられたものは「福祉や医療サービスが充実し、お年寄りや障がい者が大切にされるまち」が最も多く 21.5%、次いで「空気や水がきれいで、豊かな自然環境が守られているまち」が 16.6%。
- ・第2位としてあげられたものは、「福祉や医療サービスが充実し、お年寄りや障がい者が大切にされるまち」が最も多く 17.3%、「教育環境が整い、子どもたちを伸び伸びと育てることができるまち」が 15.9%。
- ・福祉、医療の充実への期待感が特に大きいことがうかがえる。

北広島市の将来像について



(6) 自由意見

○まちづくり推進に向けた意見等

- ・「ボールパークへの期待感」の高まりに関する意見等をはじめ、「交通アクセスの充実」、「若年層への支援」、「交流の場づくり」、「広報、情報発信の充実」、「町内会活動の活発化、支援等」、「活動への補助、助成等」、「公共施設等の整備」、「公共施設の利用状況の改善」等に関する意見等があげられている。

3 前回の団体意識調査結果との比較

ここでは、前回（平成 20 年：現行計画策定時）の調査結果との比較を行う。

なお、今回実施した調査は、設問のたずね方や選択肢が前回調査と完全に同一ではないことから、単純な比較は難しいが、類似する設問間の比較を行い、参考とする。

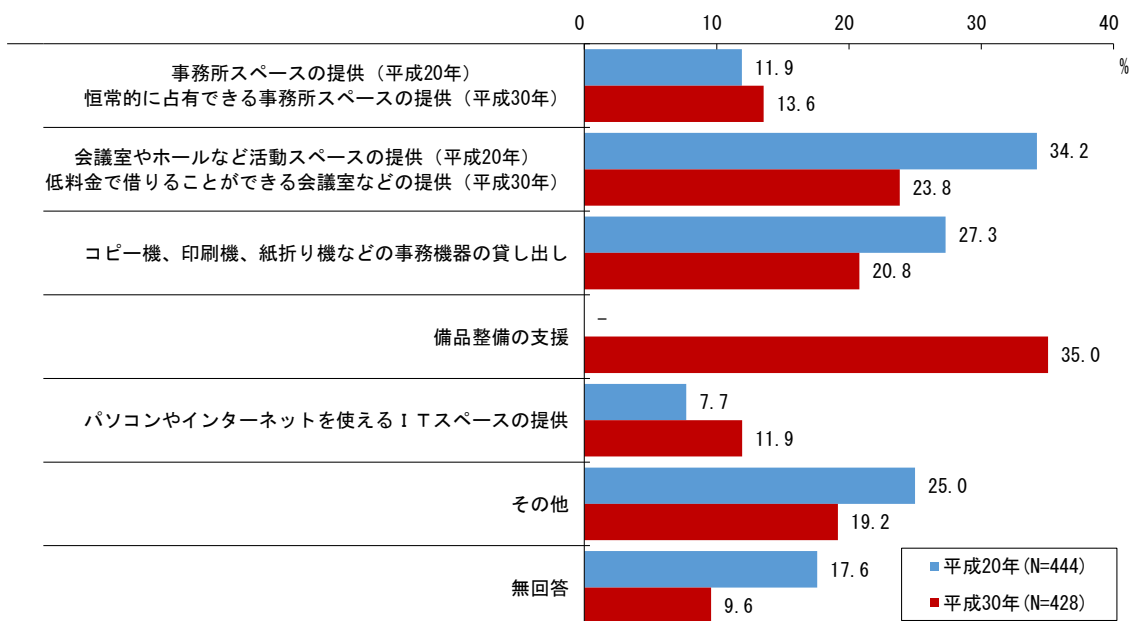
	平成 20 年	平成 30 年
	現行計画策定時	今回実施
配布数	690 件	601 件
有効回収数	444 件	428 件
回収率	64.3%	71.2%

今回調査では、前回調査時には選択肢の設定が無かった「備品整備の支援」が最も多く 35.0%であった。

前回調査では、「会議室やホールなど活動スペースの提供」が最も多く 34.2%であったが、今回調査では「低料金で借りることができる会議室などの提供」は 23.8%で 10.4 ポイント減少している。

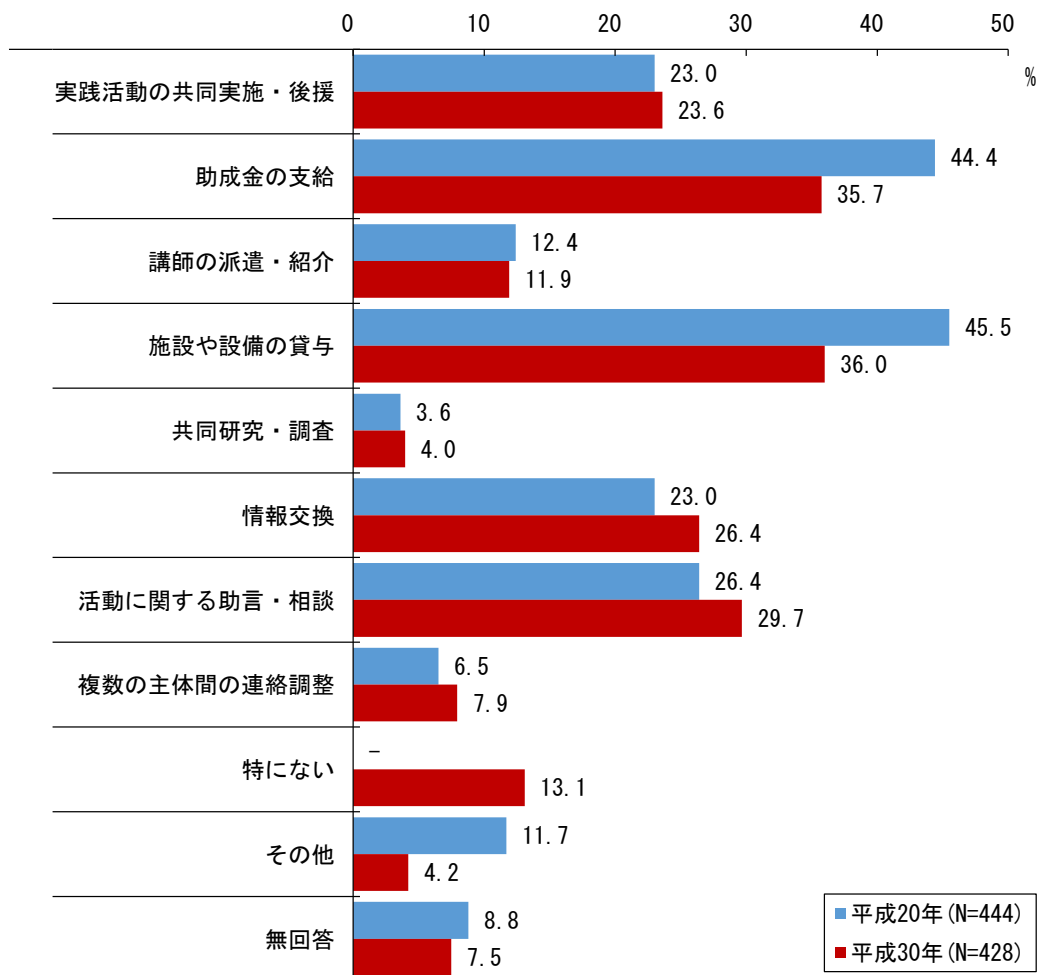
一方、「パソコンやインターネットを使える IT スペースの提供」が前回調査では 7.7%であったが、今回調査は 11.9%で 4.2 ポイント増加している。

活動の場への期待について前回調査（平成 20 年）との比較



前回調査より回答割合が増加した項目は、「実践活動の共同実施・後援」、「共同研究・調査」、「情報交換」、「活動に関する助言・相談」、「複数の主体間の連絡調整」となっている。

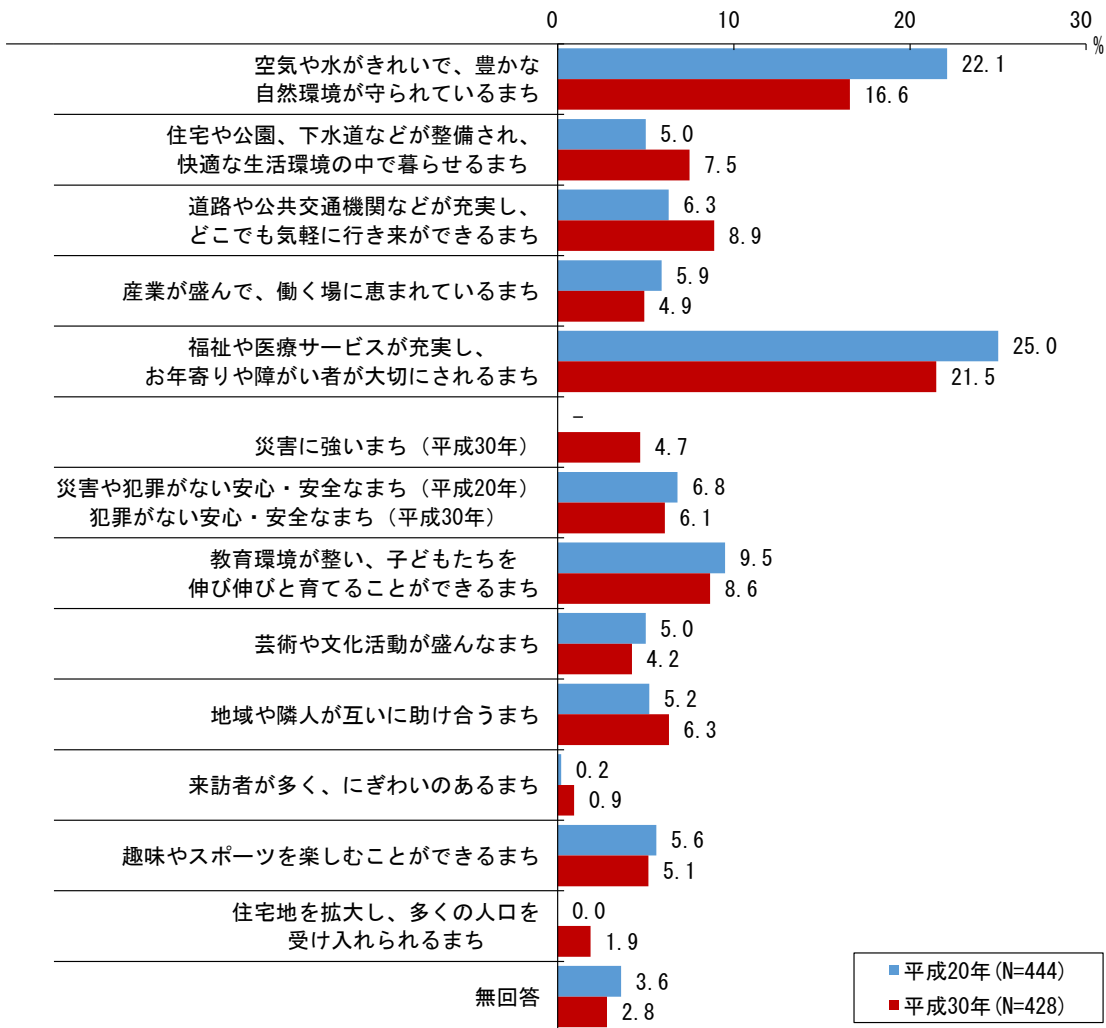
行政への要望について前回調査（平成20年）との比較



前回調査結果と同様に「福祉や医療サービスが充実し、お年寄りや障がい者が大切にされるまち」、「空気や水がきれいで、豊かな自然環境が守られているまち」が回答割合が高いが、今回調査は前回調査よりもその回答割合は減少した。

前回調査よりも今回調査の回答割合が増加した項目としては、「住宅や公園、下水道などが整備され、快適な生活環境の中で暮らせるまち」、「道路や公共交通機関等が充実しどこでも気軽に行き来ができるまち」、「地域や隣人が互いに助け合うまち」、「災害に強いまち（平成30年）+犯罪がない安心・安全なまち（平成30年）」となっている。

北広島市の将来像について前回調査（平成20年）との比較



注：平成20年は「災害に強いまち」の選択肢の設定は無く、「災害や犯罪がない安心・安全なまち」の選択肢のみ。